

# 防災ドラマ「水害から10年目の恐怖」

絆プロジェクト

## プロローグ

2004年7月13日の水害で刈谷田川の堤防が決壊、大水害となりました。その後水害を防ぐ為の河川改修で蛇行した部分が埋められ川の流れは直線的になりました。刈谷田川右岸はもともと見附市でしたが埋め立てたことで長岡市の部分が出来ました。過去の河川改修でも右岸になった長岡市部分もいくつかあり、見附市と長岡市が混在しているのが刈谷田川右岸なのです。

今回新しく出来た埋め立て部分は防災公園になり、長岡市の土地ですが見附市が管理する道の駅が出来ました。

また、その公園自体を管理し地域交流の為の両市住民が参加するNPO法人キズナの森も立ち上がり、行政を超えたまちづくりと防災に取り組むことになりました。

## 問題点は

1. 10年前の刈谷田川が決壊により長岡市中之島地域は甚大な被害を受けている。
2. 防災公園と言っても、まだ一度も災害時活用をしていないし、防災訓練もしていない。
3. 水害から10年も経つと住民の中でも風化しつつある。

## 登場人物

山崎：公園管理室室長、見附市在住、

井上：公園管理室職員、長岡市寄りの見附市在住

小坂井：NPO法人キズナの森のメンバー、見附市在住、パソコンに詳しい

綿貫：NPO法人キズナの森の理事、長岡市在住

## ナレーション

2013年7月15日

絆プロジェクト（NPO法人キズナの森）が管理する刈谷田川防災公園管理室にて

## 効果音

「バシャバシャ、ヒューヒュー」(大雨と強風の音)

山崎「刈谷田川の栃尾観測所が夜中に氾濫中位水位になったみたい。」

井上「栃尾、かなり降ったみたいですね。それに長岡中心部も降ったようで夜中2時30分過ぎにエリアメールで栖吉川流域に避難準備情報が出たそうです。」

井上「いやあ、俺の携帯も夜中に鳴って驚きましたよ。」

小坂井「井上の自宅は長岡寄りだからな、入ったんだね。」

山崎「あの川が切れたら長岡市中心街は水浸しだな。めったに無いことだと思うが。」

井上「栖吉川は奥が無いから雨が上がれば早めに水が引くからまだいいですよ。」

小坂井「その点、この刈谷田川は怖いね。今日みたいに上流の栃尾に降ったら下流のこっちは降らなくても洪水になってしまう。」

山崎「そうそう、常に上流の栃尾や見附を見ていないといけない。」

## 効果音

「バタン」(ドアを開く音)

## ナレーション

そのときドアが開いてNPO理事の綿貫が入ってきた。

綿貫「おお、だいぶ増水しているぞ、今橋を通ったら車からも水面が見えたぞ。」

小坂井「ええ、本当ですか、市の河川カメラを見ますね。」

## ナレーション

長岡市の防災サイトでは市内14箇所の河川の状態を市民が見れるようにホームページで公開しています。

刈谷田川は特に危険な川なので上流の栃尾地域に2ヶ所、下流の防災公園の直ぐ下流に1箇所設置してあります。

さらに中流の見附市も途中に1箇所、ここ防災公園からも刈谷田川の川を映しています。

合計五箇所の水量・状態がいながらにして市民も分かるのです。

## 効果音

「パチパチパチ」(キーボードを叩く音)

## ナレーション

小坂井がPCでサイトを探す。

小坂井「あったあった、どれ、栃尾の2台のカメラは……。おお、水量が半端でねえな。」

山崎「どれどれ、こらかなりの水量だな。」

綿貫「やばい、これだとまだ下流の水量は増えるぞ。」

小坂井「それ、こっちが見附市内の川の映像。」

井上「見附も増水しています。これから更に上流の水が流れてきたら心配です。これからの降雨量も見てください。」

## ナレーション

小坂井が雲の動きのサイトを探し出す。

小坂井「はいよ、あった、まだ雨雲が続々とあるな。」

綿貫「このまま行くとこっちも避難準備情報になるな。」

井上「どうなるんでしょう。」

綿貫「逃げ足の遅い老人やけが人病人は早めに避難の開始、一般の人もいつでも避難できるように準備する。行政はこの時点で避難所を開ける。それが避難準備情報。」

山崎「知っての通り、ここは道の駅「パティオにいがた」として8月23日にオープン、ここは防災拠点にもなる、避難も出来るんだ。設備はヘリポートや避難食や用品等、ソーラーパネルとリチウム蓄電池、避難所にEVチャージャーとWiFi。避難所と救援物資保管の白テント等々。」

小坂井「うわ、頼もしい、このへんの人はここに来ることになるんですね。」

山崎「確かに、でもどうだろうここは街から少し遠いし堤防と同じ高さだから上り坂になる。近くに別の避難所があればお年寄りとかはそっちに行くような気もする。」

井上「たしか一番近いのは老人いこいの家今町荘ですよ。」

小坂井「そうだね、それとその近くの今町中学校。」

井上「長岡、中之島側はどうだろう。」

綿貫「中之島保育園だね。あそこは7.13水害の時も助かっている。」

## 効果音

「ピーピーピー」（携帯の鳴る音）

## ナレーション

そんな話しをしているところに刈谷田川下流中之島地域にも避難準備情報が発令された。避難準備情報は市町村が出すもので、今回は長岡市側だけで見附市側は出ていない。行政的にはここは長岡市中之島地域だが、回りは見附市今町地域、ここの施設管理も見附市です。

山崎「私達は見附市の判断に従うことになります。」

綿貫「さて、山崎さん・井上・小坂井、ここは長岡市中之島地域も考えなくてはならない施設だ。こういうとき、見附に従うとしても長岡市側の非難準備情報も考慮しないと、実際に非難してくるケースも考えられるし、どういう対応が実際は必要でしょうね。私はとりあえず中之島保育園の避難所の非難状況を見てきます。」

## ナレーション

そう言うと綿貫は自動車に乗り避難所に向けて発進した。

## 効果音

「ブーン」(車が走る音)

## ナレーション

そして20分もすると帰ってきた。

綿貫「なんかどこもまだほとんど避難していないね。」

井上「やっぱり？」

綿貫「避難準備情報段階では避難する人が少ないね」

井上「ええ、でも、ここの7.13水害でも早く避難していれば助かった人が居たはずなのに。」

綿貫「そうだったね。この前の離島の大雨土砂崩れの件もそのほかの件も、早く逃げていればというのが多かったよね。」

井上「やっぱり災害になることなんてめったに無いのに避難準備情報段階で避難ばかりしてられないのですかね。」

山崎「それもあると思うけど、10年前に水害の犠牲者も2階にさえ早く避難していれば助かったと思える人も居たぞ。」

井上「そうそう、家庭内の避難も皆さん考えてあるようだから、多少の水は避難しないのかもですね。」

綿貫「ここの避難者は？」

井上「さっき見ましたが、もともと雨で客は少なく、そのお客さんも車で帰って行ったようです。」

綿貫「えっ、道路は大丈夫なのかな」

小坂井「その辺の情報もわかるようにしてあるからそんなに心配要らないようです。」

## ナレーション

そうこうしているうちに雨は小降りとなり避難準備情報も解除された。

綿貫「今回のような災害寸前というのは毎年あって、ある年に突然大災害になる。その災害寸前と大災害の境目はわからない。ここの役割は災害後だけでなく、災害寸前にも大きな仕事があると思うんだ。」

井上「そうですね、でも今日みたいな時はただ自体を見ながら定められた必要な対応を待つしかないんですよね。」

山崎「そういう意味でも近所の方にここの機能をもっと知ってもらうのは大事だな。」

小坂井「イベントで来てもらうことですね。」

山崎「そうだな、事あるごとに来てもらって観てもらい、親しみを持ってもらうことも早期避難に結びつくかもだな。」

綿貫「ここに来ることが気軽に楽しいくらいでないと。でも両市民の防災訓練も必要だね。」

## エピローグ

この公園が出来の前から NPO はイベントを行って来て、今回新しく出来た道の駅では地元農家の野菜直販も行っている。

地域の人たちに来てもらう手立ては色々行っている。

ただ、もう一工夫の必要性を感じる 4 人であった。